

森町人口ビジョンに対する意見書 No 1

意見の内容

この改訂・検討は、結局は将来の人口減少を展望することであり、厳しい内容の検討を迫られます。人口約1万人の仮定で、現状延長上の施策展開の途を進むか、あるいは、7,000人以下の森町での、従前とは違う視点から、あるべき住民生活のための施策・体制に入るか、という町政方針の根幹が問われている、と理解します。

1 人口の将来展望は「2060年人口約4,000～7,000人」

人口試算は6ケース。そのうち社人研予測の第6ケース（同一3,853人＝約4,000人）、第1ケース（2060年－6,936人＝約7,000人）があります。

この第1ケースは、2020年時点約15,000人でかい離が少なく、かつ出生率や移動に関しても、その仮定は事実に近いと思われます。概要版にもあるように、これによる予測を出発点にします。

2 「2060年人口約1万人」は願望値である。

①目標1万人は、「出生率1.8、移動なし」の条件下の第5ケースに近似です。しかし、第5ケースは、2020年時点で約16,000人～17,000人を示します。既に現実の2020年・約15,000人と差異があります。

②第5ケース「2060年人口約1万人」には以下の仮定があります。

- ・純社会移動が生じることが現実的、「効果的な施策を講じて」、「純社会移動をゼロ」と考える。
- ・想定人口の2060年1万人に向けて、「様々な施策、人口対策が十分実現すれば」出生率が上昇し、社会増減は続くが、「定住促進施策により」均衡する、と想定したい、としています。

③しかし、これら仮定や条件が、好転することは限りなく小さいと考えられます。

④よって、「2060年人口約1万人」は、期待値・願望値です。

3 「2060年人口約1万人」を設定する根拠は何か。

①これに関する議論や経過は見当たりません。どのような過程を経て、この結論に至ったのでしょうか。人口ビジョン概要版には「総合戦略委員会で決定」とありますが、ホームページの同議事録などでは、そのようなことは読み取れません。説明が必要です。前提で触れたように、今後の調整運営の根本にかかわります。

②「2060年人口約1万人」の森町の姿、状況をどのように想定しているのですか。

【次頁へ続く】

③「第2次森町総合開発振興計画」との整合に疑問あり。

- ・町政最上位計画である「第2次森町総合開発振興計画」（以下、総合計画）は、2027年目標人口＝15,000人。「各種の施策をこれまで以上に充実させ、人口減少傾向を緩和する」という前提があります。
- ・「人口ビジョン」や「総合戦略」を総合計画の下位計画としており、施策総体として施策効果を上げるには、総合計画との整合が必要です。人口約1万人とすることは、現「総合計画」の人口想定を見直し、人口ビジョンや総合戦略での課題を踏まえ、総合計画の各種計画・事業を再点検、再構築する必要があります。

④目標人口1万人設定には、人口規模約3,000人以上（10,000人－7,000人～4,000人）を減らさない施策展開の効果を見込む必要があります。単純計算で今後40年にわたり、毎年75～150人程度の増を図り、減少傾向を阻止しなければなりません。その目算の検討を経て、1万人を設定する必要があります。1万人に設定するための根拠を明確にすべきです。

●意見公募の本来の意義を果たすには説明会開催を

今回の、このような重要で基本的な計画・事項については、討議経過も長く、専門用語も多く、それらを踏まえた複雑な内容があります。前提知識も持ち合わせない個々の町民が、直ちに理解するのは簡単ではありません。ウェブ上で資料を公開し、意見を募る方式は親切ではありません。

意見を求めるのは、何を期待して行うのですか。住民が理解しやすい形で情報提供をし、意見を募るべきだと思います。説明会などで資料も配布（あるいは貸与し）、そのうえで意見を求めるべきです。また、町民への「公表」と議会への「説明」の相違は何ですか。

第2次総合戦略に対する意見書 No 1

意見の内容

1 施策効果の確実性や施策スピードの検証を。

案の事業は、どの程度の効果、実施速度をもたらすか記述すべきです。

自然及び社会増減の両面で、「総合戦略」や「総合計画」の事業による顕著な効果が求められます。

2 今までの施策展開の延長・派生のみでは、その目的達成はおぼつかない。

組合せ・複合的な視点で構想する発想が求められます。全体を俯瞰する都市計画的な見方（点—線—面、時間）からの発想も必要と思います。

3 策定体制の再考を— 体制イメージ図を見ての意見

①最終アウトプットはどんな形で、どこが出すのか。

この策定体制は、計画・施策立案、評価測定など、構想や計画案作成に関する実務的中核主体があいまいです。

委員会は諮問機関であり、構成員を見ても、その位置づけであると思います。

町長から委員を委嘱される推進委員会は、設置要綱で「意見・検討・審議を推進する」と規定しています。このことは企画立案する組織ではないはずです。

②各課からの事業案提示を単に束ねる方式では限界がある。

現場各課からは、既存事業手法の枠を超えた案は、ほとんど出ないと思われます。役場内がこの状況であることは、委員会討議の際にも述べられています。

③各種の情報を解析・集約し、町長の指示の下、将来への方向性を示唆し、将来目標を掲げ、時間配分も考案し総合的な把握の下での計画立案を行うという中核機能を確立すべきです。「町長指示」は、その矢印方向や内容に関し、再考する必要があります。新たな道程で、実りある施策を打ち出すため、事務の流れ、策定体制の再構築が必要です。

第2次総合戦略に対する意見書 No 2

意見の内容

基本目標1

- ・第1次で掲げた基本方向「森町で働き続けられる雇用の確保の創出」がまず土台となるのではないか。それがなくして担い手、後継者もなく地域産業のPRもない。
- ・空き店舗数を増やさず、空き店舗の活用がなくなったのもいかがか。この問題こそ、第1次でやりきれず第2次でこそ力を入れて取り組むべきではないか。
- ・今現在頑張っている企業や事業者、店舗を応援すること。そこでの共同や新規の取り組みで広げていくような取り組みを通じ、担い手や後継者、インターンシップへとつながっていくのではないか。

基本目標2

- ・「森町の魅力発信」があれば、その中心として「観光協会」の強化をすべきではないか。
- ・年間スケジュールでイベントをつなげ、地域おこし協力隊員も「定住」から広げて観光全体＝観光協会への協力員としての役割を担ってもらっては。
- ・移住・定住では空き家紹介を積極的に宣伝しては。

基本目標3

- ・若い人達の集まりや組織作りを通して出会いやコミュニケーションの場を作っては。
- ・子育て、出産ではかなりの前進があり、近隣町に枠を広げた若い人の交流の機会に力を入れるべきと思う。

基本目標4

- ・「健康づくり」で特に健診受診率の向上に力を入れるべきと思う。
- ・公共交通運営にかかわって住民の声をしっかり聞き取り、利用しやすい公共交通網をできるだけ早く実現を。
- ・安心な暮らしにとって安全が重要。避難訓練や避難道、避難所の徹底、上下水道の完備が必要。

横断的な目標

- ・SDGsの推進は本当に必要であり、緊急な課題だと思う。17項目のどこからでも具体的に取り組むべきで町民への啓発、町としての取り組みを。とにかく一歩を具体的に進めていこう。